

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	高齢者等雇用促進奨励金事業				会計	款	項目	大	小
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	01	05	01	01	03
施策	5-3	誰もが安心して働ける環境・基盤づくり			主管課長	金子 孝行			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内事業者・市内に居住する高齢者	意図	市内事業者・市内に居住する高齢者
事業内容	市内に居住する高齢者を雇用する事業主に雇用促進奨励金を交付し、高齢者の雇用を促進している。			
事業開始から現在までの状況変化	近年の景気低迷や震災の影響もあり、未だ年齢層を問わず雇用環境の改善には至っていない。特に高齢者の雇用環境は厳しいと聞いている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	奨励金対象者数	4	4	4	
②							
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成21年度4月から奨励金交付規則を制定し、雇用実績に基づき奨励金を円滑に交付するための簡素化を図っている。昨年若年者雇用の増加により、高齢者の雇用環境が厳しく申請事業者は減少している。			
事務事業の総計(a=b+c)	255,000	405,000	210,000				
事業費(b)(円)	255,000	405,000	210,000				
うち一般財源	255,000	405,000	210,000				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価						

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	奨励金制度を事業所に周知する。	③取り組みの課題	国の雇用政策から、今後の高齢者の再雇用の機会が増えることも想定できるが現状では進展が見られない。
②今年度(H26)に実施した取り組み	広報紙・商工会議所会報等で周知を図る。	④今後の改善計画	事業所への周知に努める。